

京都大学言語学研究

第20号

論文

| | | |
|--|--------------------|-----|
| “Artificial Idiomaticity” in Neologistic Terms of Republican Turkish | Klaus RÖHRBORN | 1 |
| Dom Texts — ‘A Hawk and a Parrot’, ‘A Dog and a Pig’, and ‘Stealing’ — | TIDA Syuntarô | 11 |
| Superlative Suffixes in Indo-European and Latin: Relation to Ordinal Numbers and Process of Variation | Kanehiro NISHIMURA | 37 |
| 楔形文字スペリングの言語学的解釈 — 3つの事例 — | 吉田 和彦 | 51 |
| 一般米語における母音体系の再解釈 | 山本 武史 | 71 |
| フランス語の疑問文における文体的倒置について | 平塚 徹 | 87 |
| 現代日本語の「～ばなし」とアスペクトの意味 — 動詞の意味論への予備的考察として — | 小西 正人 | 119 |
| 中国語の名詞の指示対象 | 伊藤 さとみ | 139 |
| 延辺朝鮮語のアクセントに関する考察 | 朴 永梅 | 171 |
| 西夏語の脚韻に見られる韻母について — 『三世属明言集文』所収西夏語詩 | 荒川 慎太郎 | 195 |
| ウイグル語で書かれた甘蔗王にまつわる一説話の研究 | 菅原 睦 | 225 |
| ロシア所蔵ウイグル語断片の研究3 | 庄垣内 正弘 | 243 |
| 京都大学言語学懇話会 2001年度活動報告 | | 279 |

2001

京都大学
大学院文学研究科
言語学研究室

「京都大学言語学研究」(21号)の原稿募集について

「京都大学言語学研究」(21号)の原稿を募集します。投稿される方は次の執筆要領によりご提出ください。

執筆要領

1. 提出原稿 論文は完全原稿を提出すること。採用論文については後日フロッピーディスク(MOディスク, CD-Rも可。機種を明示すること)を提出する。
 - (1)原稿枚数 日本語論文は明朝体12ポイント(1行37字程度)・35行/ページ, 欧文論文は12ポイント・35行/ページ(1.5スペース程度)で, 図表などを含めA4版用紙30枚程度とする。
 - (2)原稿の余白設定等 各ページのマージンを上下左右:30, 35, 30, 30mmとり, ページ番号を印字しないこと。ページ番号は, 右下隅に鉛筆で記入する。
 - (3)タイトルと氏名 1ページ目はじめにタイトルと氏名(中央揃え)を入れること。タイトルは14ポイント太字とする。なお, タイトルの上部には2行分の余白を設け, タイトルと氏名の間に1行分, 氏名と本文はじまりとの間に2行分の余白を設ける。
 - (4)注について 注は通し番号をつけ, 各ページの末尾におく。文字サイズは10~11ポイントとすることが望ましい。
 - (5)要旨 英文でA4版用紙1枚程度の要旨を付ける。タイトルと氏名の体裁については上記(3)に準ずる。要旨文はじまりの左上部にAbstractと太字で表記し, 要旨文はじまりとの間に1行分の余白を設けること。なお, 英文論文の場合は要旨ページにタイトルと氏名を入れない。
2. 採否 原稿の採否については, 編集委員会で決定させていただきます。
3. 原稿締切日 2002年8月31日必着
4. 投稿先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科 言語学研究室
電話 (075) 753-2862 Fax (075) 753-2827
5. その他 採用された原稿及びフロッピーディスク類は返却いたしません。なお, 抜き刷りの印刷費用は原則として投稿者の負担とさせていただきます。ご了承ください。

編集後記

『京都大学言語学研究』は、第20号という節目を迎えた。編集に際し、長年にわたる伝統を継承できた喜びを感じ、また本号の発行に至るまで大勢の方々から御支援いただいたことに深く感謝の念を抱いている。この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。

本誌は、前号において編集体制を一新したばかりで、編集作業の段取りなど未だ発展途上の点も多いが、伝統に対する誇りをもって、今後さらなる飛躍を目指していきたい。

編集委員長

2001年12月24日発行

編集委員長：西村周浩

編集委員：大崎紀子，岸田泰浩，庄垣内正弘，白井聡子，田窪行則，
千田俊太郎，西村多恵，朴 永梅，藤代 節，藤原敬介，
森 若葉，藪 司郎，吉田和彦，吉田 豊。（五十音順）

発行者：京都大学大学院文学研究科言語学研究室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Edited by Kanehiro NISHIMURA, Noriko OHSAKI, Yasuhiro KISHIDA,
Masahiro SHŌGAITO, SHIRAI Satoko, Yukinori TAKUBO,
TIDA Syuntarō, Tae NISHIMURA, Youngmae PARK,
FUJISHIRO Setsu, HUZIWARA Keisuke, Wakaha MORI,
Shiro YABU, Kazuhiko YOSHIDA, Yutaka YOSHIDA.

Published by Department of Linguistics
Graduate School of Letters, Kyoto University,
Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto,
606-8501 Japan

Kyoto University Linguistic Research

Vol.20

Articles

| | |
|--|-----|
| RÖHRBORN, Klaus : “Artificial Idiomaticity” in Neologicistic Terms of Republican Turkish | 1 |
| TIDA, Syuntarô : Dom Texts | |
| — ‘A Hawk and a Parrot’, ‘A Dog and a Pig’, and ‘Stealing’ — | 11 |
| NISHIMURA, Kanehiro : Superlative Suffixes in Indo-European and Latin: | |
| Relation to Ordinal Numbers and Process of Variation | 37 |
| YOSHIDA, Kazuhiko : Interpretation of Cuneiform Spellings: Three Cases | 51 |
| YAMAMOTO, Takeshi : A Reinterpretation of the Vowel System in General American ... | 71 |
| HIRATSUKA, Tohru : Stylistic Inversion in French Wh-Questions | 87 |
| KONISHI, Masato : Japanese suffix “-ppanasi” and its aspectual meanings | 119 |
| ITO, Satomi : The denotation of Chinese bare nouns | 139 |
| PARK, Youngmae : Accent of Yanbian Korean in China | 171 |
| ARAKAWA, Shintaro : About the rhymes in Tangut verses: | |
| Reanalysis of Tangut rhyming poetry in <i>San shi shu ming yan ji wen</i> | 195 |
| SUGAHARA, Mutsumi : A story related to the King Ikşvāra in Uyghur | 225 |
| SHŌGAITO, Masahiro : Some Uighur fragments preserved in Russia | 243 |
| The Annual Report of Kyoto University Linguistic Colloquium 2001 | 279 |



2001

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University